

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年8月18日(2005.8.18)

【公開番号】特開2002-275239(P2002-275239A)

【公開日】平成14年9月25日(2002.9.25)

【出願番号】特願2002-41745(P2002-41745)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 G 59/14

C 0 9 D 163/00

C 2 3 F 11/00

【F I】

C 0 8 G 59/14

C 0 9 D 163/00

C 2 3 F 11/00

B

【手続補正書】

【提出日】平成17年2月2日(2005.2.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

エポキシ樹脂AおよびA'はエピクロルヒドリンと分子当たり2つ以上の水酸基を持つ芳香族-または(環状)脂肪族化合物との反応(Taffy法)によって公知の様に得ることができるジエポキシまたはポリエポキシ化合物から互いに無関係に選択されるかまたはジエポキシドまたはポリエポキシドと、エピクロルヒドリンと上記の分子当たり2つ以上の水酸基を持つ芳香族-または(環状)脂肪族化合物との反応(前進反応)によって得ることができる。芳香族ジヒドロキシ化合物、例えばビスフェノールA、ビスフェノールF、ジヒドロキシジフェニルスルホン、ヒドロキノン、レゾルシノール、1,4-ビス[2-(4-ヒドロキシフェニル)-2-プロピル]ベンゼン;または脂肪族ジヒドロキシ化合物、例えば1,6-ヘキサンジオール、1,4-ブタンジオール、シクロヘキサンジメタノール、またはオリゴ-およびポリプロピレングリコールをベースとするエポキシ樹脂が有利である。エポキシ樹脂の比エポキシ基含有量は好ましくは0.4~7mol/kg、特に好ましくは0.6~6mol/kgである。一つの有利な実施態様においてはジエポキシ化合物がAおよびA'の各場合に使用され、比エポキシ基含有量がAの場合に0.5~4mol/kgでそしてA'の場合に2~5.9mol/kgである。